21　医史料の保存とその新生事業の一具体例

『芸備医事』復刻完成について

中川　和夫・江川　義雄

印刷メディアの革命的進歩により、文化的遺産特に貴重な文書・書籍類の廃捨処分や煙滅は加速されつつある。その危機的状況は全国的にみられ、しかも急速に進行している。その対策は急務と指摘されつつも、その妙案は至難なことである。

幸い当地区では、この難題を解決した事例について報告する。その保存事業は日本医史学会の前史的資料と目される『芸備医事』のバックナンバーの復刻とその永久保存版の完成である。

この経緯については平成十年函館市における総会で発表し、抄録に記述されているところである。本書刊行のメンバーが学会設立に参画し、本書の刊行理念も他の類書に見られない編集で継続し、百年前より月刊として全国的に流布され、明治二十九年六月十二日の創刊から、昭和十七年十二月十五日の廃刊に至る五百五十五号の命脈を保ってきた。

地元・広島は原爆被害により、そのバックナンバーを揃えることができず、各地に散在する本書の完本復元を求め、芸備医学会創立百年記念事業の一として再生させ、その運営は富士川游顕彰会が主体となり、有志の募金を加え、予想以上に順調に作業も進行し、平成十年一月二十三日に終了し、富士川游顕彰会もその発刊をもって解散するに至った。

本書は医史料としてのみならず、広く文化史的情報内容を網羅しており、一般にも活用して頂く目的から、管理・保管にも申し分ない広島県文書館に寄贈された。

ここにおいて先覚者の偉大な理想実現を讃えることができた歓びと共に、本書にはアオ雁皮紙が使用されて、物理的にも不朽の命を、これからも持ちつづけ、印刷史上にも輝しき一石を投じたことは望外の感動でもあった。